

## Q-9 水（プール）の管理の仕方について教えてください。①

### A プール使用日の水質管理

#### ○塩素濃度管理

プール水中の残留塩素は、日光の紫外線による分解・入泳者の持ち込む汚れ・毛髪・水着等により絶えず消費されます。残留塩素濃度を基準値以上に保つためには、有効塩素量を常に補給して、一定濃度以上を維持する（0.4mg/L 以上から 1.0mg/L 以下）ことが消毒管理の要点です。

#### 「塩素剤を投入しても残留塩素が検出されないとき」

残留塩素測定器の発色試薬剤の有効期限が過ぎてないか確認しましょう。試薬が使えるかどうかは、水道水の残留塩素を測定することで点検できます。

#### 「塩素濃度が均一にならないとき」

塩素消毒剤の連続注入装置を利用している場合でも、残留塩素濃度が部分的に基準値以下になる場所には、液体や顆粒の塩素剤を散布したり錠剤の塩素剤をいれたりして基準値以上を保つようにしましょう。

#### 「塩素剤の取り扱いや保管の注意」

- ・換気のよい、湿度の低い場所に保管
- ・高温や直射日光の当たる場所を避ける
- ・開封済みで余ったものは水に溶かして処分

#### ○排水管理

塩素濃度の高い水が河川にそのまま流出すると、魚介類等に悪影響を与えます。下水道が整備されている地域の学校は脱塩素しないで直接排水しても周辺環境に影響のない場合もありますが、水質保全のため、残留塩素の消失を確認してから放流するようにします。塩素を消失させるには、還元剤（チオ硫酸ナトリウム）を投入するか、しばらく貯留して日光に当て残留塩素が消失したことを確認してから放流します。

## Q 水（プール）の管理の仕方について教えてください。②

### A プール使用日以外の水質管理

#### ○プール未使用日や休日の水質管理

プールを使用しない日でも、塩素剤を投入することによって水質悪化やコケの発生をある程度防ぐことができます。毎日投入することが望ましいですが、休日前など、多めに投入しておくことでも対応できます。

夏休みの閉庁期間については、2・3日ごとに塩素剤を投入する体制が組めればある程度の水質を維持できますが、閉庁日明けに排水し清掃するのも一手です。

#### ○シーズンオフの管理

プールの水を抜いた場合、塗装の剥離、コンクリートのひび割れ、紫外線によるFRP（プールの材質の一つ）の劣化等が想定され、また、冬期凍結するような地域では、コンクリート下の土壌凍結によりコンクリートの盛り上がりが生じるおそれもあります。したがって、シーズンオフには、水を入れておくほうがプール保全上好ましいです。

また、プールは、その貯水能力の大きさから、地域における防火用水、緊急用非常水源としても重要です。